

2023年8月号

故郷の人物を知ろう

おん こ ち しん
たかおか 温故知新

しん ぼ うしはる
守山城主／神保氏張(1528～92)

神保氏張は戦国時代の武将です。通称は宗五郎、清十郎。安芸守と称しました。出身は諸説あり、能登・越中守護の畠山氏の猶子とも、また越中守護代神保氏の庶流で守山城主となる神保氏重の子とも、氏純の養子ともいわれます。

二上山に築かれた守山城は氷見・射水だけでなく、砺波・新川平野の一部までも見渡せる重要拠点でした。戦国時代末期、氏張は能登畠山氏の意向を受けて守山城に入ります。その後、越後の上杉謙信などから攻撃を受けるも一向宗と協力し城を維持しました。

越中で織田上杉の争いが激しくなると、氏張は信長の妹を妻とするなど織田方となり、佐々成政の腹

心として活躍します。高岡にとって有名な事績は、秀吉と対立した成政が一向宗を味方に

引き入れるため、天正12年(1584)、伏木に勝興寺を招いたことです。伏木における勝興寺の歴史は氏張によって始まりました。

成政が肥後(熊本県)へ転封となると、氏張もこれに従います。成政が切腹となると浪人になりますが、のち、徳川家康に召し出され、下総香取郡(千葉県北東部)で2千石を与えられ、子孫は旗本として続きました。成田市にある氏張の墓には「越中守山之城主」の文字が刻まれています。(仁ヶ竹主幹)



神保氏張書状(博物館蔵)

問合先 博物館 TEL 20-1572